

# あなたはみんなの元気の源！

埼玉県立蕨高等学校 山崎 淳

新しく学校現場で働くことになったみなさん。みなさんの着任を心よりお待ちしております。仕事には慣れてきましたか。そろそろ教育の楽しさだけでなく、難しさも実感する頃かと思います。10年前の自分を思い出してみても、生徒との充実した時間、喜びを感じる一方で、若さと情熱というカンフル剤で体の疲れや悩みを掻き消していました。

先日、自分が初任者の時に掲載していた原稿を読み返してみました。慣れない生徒指導や部活動にとまどい、四苦八苦していた頃、書いたものです。「大変だけど、生徒がいるから頑張れる。生徒が私の元気の源！」と、ひたむきさが伝わる微笑ましい文章です。でも、正直に言うところ、ちょっと辛い毎日でした。未経験のスポーツの指導、臨任時代とは異なる教科指導、疑問が残る手法の生徒指導、初めての一人暮らし、連日の22時過ぎの帰宅……。何より辛かったのは、弱音を吐けなかったこと。

やっと本採用になったから、他の若い先生達はできているからと、胸のモヤモヤを誰にも打ち明けられずにいました。もちろん同僚の先生方からは優しい言葉をかけていただいていたが、甘えてはいけないという思いが強すぎて、私の心にまっすぐ届いていなかったように思います。

そんな心にも体にも厳しい生活をしばらく送っていると、ついに体調を崩してしまいました。せっかく教員になれたのに、このままの働き方では続けられない。学校以外の場所で自分の人生を豊かにすることが、豊かな教育として生徒にも還元される一念発起。それまでの生活を改善し、足が遠のいていた組合の活動にも参加し、学校の先生方と積極的に交流する中で、自分なりの教育観や指導法を再構築することができました。そして、豊かな教育とは、教職員が本音で語り、支え合える関係の下でしか実践できないものだと思えました。生徒との信頼関係はもちろん、教職員同士

の信頼関係なくして、学校教育を行うことはできません。その為に自分ができることは何か。今も模索中ですが、笑顔とゆとりを忘れずに、明るい職場作りを心がけていきます。

これから、卒業生を送り出し、異動や人生の転機を経験して、変わっていく部分もあるでしょう。でも、「先生」を志した時の想いは、これからも大切にしてください。教育は「今」だけで完結するものではありません。これから20年、30年と続けていくことに意味があります。だから、体を壊さない働き方や長期的・多面的なモノの見方や考え方ができる職場を一緒につくっていきましょう。生徒から元気をもらうだけでなく、生徒や他の先生方があなたの姿に励まされる、そんな人になっていって下さいね！

# 頑張ることは大事、休むことも大事

特別支援学校大宮ろう学園 中村 一幾

私は現在、正規採用の教員として勤務をして2年目になります。それまでは非常勤、臨任と6年間ずっと高校で勤務をしてきました。今回、初任者の方へのメッセージということで原稿の依頼をいただきましたが、正直何か伝えられるほどの経験もしていないので、私の昨年の体験についてお話したいと思います。

昨年4月、やっと合格したんだから、今まで以上に頑張るぞと強い気持ちを持って着任しました。初めての手話の世界で、授業中に生徒がわからないことがつかめず、話していることがわからず、悩んでいます。手話が出来ないぶんは教材でなんとかするしかないと思い、休日返上でパワーポイントを作って授業をしていました。また、授業の前には必ず1時間の流れを手話で確認していました。

平日は21時過ぎ、休みの日も16時くらいに帰るそんな生活が続いていたある日、手話を見ていたらめまいに襲われ、気持ち悪

くなり手話を見ていられなくなってしまいました。幸い次の日には治りましたが、その後も原因不明のじんましんが出たりという日々が続いていました。さすがにこのままでは自分が倒れてしまうと思い、勇気を持って土日は休むことにしました。

その後、めまいに襲われたことはありませんし、じんましんが出ることもなくなりましたが、もし、休まずに頑張り続けていたらどうなっていたのか想像するだけでも恐ろしいです。もしかしたら、身体からのSOSだったのかもしれない。もちろん、頑張ることを否定する訳ではありませんし、状況によっては休むことが厳しい方もいると思います。ただ、夢を持って教員になったのに頑張りすぎて自分の身体を壊してしまい、働けなくなるのはとても悲しいことです。

良い教育をするために研修をうけたりや、教材研究をすることは大切ですが、それ以上に教師が心に余裕を持って生活する

ことも大切だと思います。ただ、教師がゆとりをもって生活をするためには超過勤務の解消は、喫緊の課題ですし、それは個人の意識だけで解決する問題ではありません。今後も抜本的な超過勤務の解消を求めていくとともに、リフレッシュ出来ることを探すことや、それを共有できる仲間や、パートナーを見つけて、今まで以上に充実した教員生活を歩んでいきたいと思いません。



# 真新しい教師の皆さんに

獨協大学 川村 肇

皆さんは子どもが好きで、子どもを幸せにしたくて教師という道を選んだのでしよう。皆さんの素晴らしい選択を心から祝福します。しかしこれから皆さんが出会う困難を前にした時、その最初の皆さんの願いが本物かどうか、これから試されていきます。そして教えるという仕事は、その試練の連続といってもいいかもしれません。

教師は精神的労働でもありながら、最も拘束労働時間が長い職業です。学級定員の多さに加えて、膨大な事務仕事に忙殺されます。大切な授業の準備の時間すら取れないのが実態です。忙しさは教師間の人間関係を直撃し、管理職との間にも同僚の間にも軋轢を生みだしてしまいます。子どもが好んで選んだにもかかわらず、その子どもとかかわる時間の少なさときたら！子どもたちも競争させられて、子ども同士の人間関係も良くないことがあります。子どもとかかわる時間が少ないので、じっくり話し合ったり悩みを聞きだしたりする時間も

中々取れません。それで学級の運営もうまくいかないことがあります。心配になった保護者の方々は黙ってはいないでしょう。管理職も守ってくれるとは限りません。管理職によるパワハラすら少なくないといえます。精神疾患がこれほど多く報告されている職業はないそうです。

こうした困難を目の前にした時、皆さんは常に試されています。

学級が荒れている時、学級をいわゆる「スタンダード」にするためには、子どもを押しさえつけ「締め」れば「シヤン」とします。子どもの言い分など聞かずとも、威圧すれば上辺は「キチン」とするでしょう。同僚や管理職の目も気になりますし、保護者からのクレームはうんざりです。ついついそういう管理的な態度に走ってしまうのも分からないではありません。けれども、そのとき教師は子どもの側に立つことをやめているのではありませんか。

皆さんは子どもを成長・発達させる専門

家として、保護者からその教育権の一部を信託されて子どもを教えています。管理的で威圧的になるのは簡単ですが、教育の専門家がとる道ではありません。子どもにとつての先生は、一生涯、親以外で最も身近な大人として記憶に深く刻まれます。「いい先生」になどならなくても構いません。けれども、その成長・発達に責任を持つ大人として、子どもの側に立ちさった先生でいてください。

そのためには毎日が学びの連続です。先輩の教師や同僚から、教育学の書物から、実践の記録から、そして何よりも目の前の子どもたちから、たくさんのことを学んでそれを血肉にしていってください。血肉になる学びこそ、大学までにあまり経験できなかった本当の学びです。学び続けて皆さんの先輩たちは本当の「人の師」となっていくたのです。

皆さんのその真新しい決意を日々新たに、教師への道を磨いていって下さい。

# 物語を聴き、読むことから

読み聞かせボランティア（川口市） 奥山 博子

私は、我が子と共に子どもの本の面白さに出会い、図書館や児童センター、時には学校の教室に伺つてのボランティア活動を通して、多くの子どもや親子に会ってきました。

少しでもいいものを届けたくて、児童文学の講座を受けたり、おはなしを丸ごと覚えて「語り」として届けたりしてきましたが、何がいちばんの楽しみだったかと考えますと、物語そのものの楽しさを自分も味わい、それを子どもと共有できたと思える瞬間が折々にあったことだと思います。

子どもの顔を見ると、ああ、この子は今、主人公と一緒に旅に出ているのだな、と思えるときがあります。そしてその度に、子どもたちはまだまだ、しっかりと昔話や物語を求めていると感じます。

娘が中三のときのこと、勉強に疲れていたでしょう、傍にいた高校生の息子に「お兄ちゃん、おはなしして！」と叫んだことがあります。息子は「おう、俺ができる話

は（めめたるう）だな。よし。むかしむかしあるところに」と語り始めました。それは息子が小学生の頃好きだったイランの昔話で、娘も一緒に何度も読んだ話でした。じつと目を閉じて聴く娘。子どもの頃の体験が再現され、疲れた頭がほぐれていく様子が少し離れた場所で見えていた私にもよく伝わってきました。

子どもたちにはたくさんのお話に出会ってほしい。いちばん安心できる場所からどこかへ出かけていって、何かが起きて、欠落部分の充足があつて、帰着するという「行きて帰りし物語」をたくさん体験した子どもは、無意識のうちに真実を感じとっているのではないのでしょうか。そして登場人物に自分を重ね合わせる力、いわゆる「共感」力や自己肯定感、気持ちの安定やいざというときの勇気につながるように思います。

「私も大事、あなたも大事」という気持ちがあつていけば、「会ったことのないど

こかの誰かも大事」と思えるようになりま。そして、どの国にも一人一人の暮らしがあることが「想像」できれば、「私の国も大事、あなたの国も大事、行ったことのないどこかの国も大事」と思えるようになると信じています。

今の社会は、対話より命令や監視の社会に向かっているのではと心配になります。そうならぬよう、私も含め大人の「想像」力ももっともつと磨いていきたいと思いません。

新しく先生になられた方々にも、そんな平たい心で子どもたちに接していただければと願っています。